

## IV. 適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

本WGは、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で2010年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催しています。知床エコツーリズム戦略に基づいて、遺産地域の資源の適正な利用やエコツーリズムなどの持続的な観光を推進するため、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」が検討会議です。検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とそのモニタリングが議題となっています。

なお、長期モニタリングや既存ルールの見直しなど、科学委員会のWGとして検討すべき課題が増えていることから、平成30年度から適正利用・エコツーリズムWGの単独開催も実施することになりました。

### 1 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、現在取組が進められている3件の状況は以下のとおりです。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	羅臼町観光協会	半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーと位置づけて試行している。平成29年度のツアー参加者は0人であったが、平成30年度は計86人（ツアー催行8回）が参加した。また、地域内の合意形成及び社会教育を目的に羅臼町民を2名ツアーに招待している。 参加者が増加した一方、ツアーの経営的持続可能性や地域としてのツアー実施の意味について検討が必要。
外国人旅行者向け情報発信の強化	知床財団	ルールを意識して知床を楽しむために、外国人に向けた情報発信の強化を目的とした各種事業を行っている。平成30年度は知床情報玉手箱の情報更新やFacebookによるヒグマ情報の公式的発信など、これまでの事業を継続するとともに、部会関係者による共同事業の検討を行う予定である。 インバウンドに対して、文化差を越えて、保全と利用の調整の仕組みを共有するには経費がかかる。知床財団だけの負担では限界があるので、経費支援先の探索や提供サービス拡充と合わせた受益者負担の検討が必要。
厳冬期の知床五湖エコツアー事業	斜里町観光協会	冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツアーを実施している。平成29年度は自主除雪にて実施し、平成30年1月22日から3月22日のツアー期間中、計2,314名が参加した。 利用コントロールが特に必要な時期・場所であるため、参加者増加に伴う今後の利用コントロールの方法、運営や資金計画、等検討を進める。

## 2 個別地域における取り組み状況と課題

### ○知床五湖における利用調整地区制度の運用

高架木道と地上遊歩道（ヒグマ活動期及び植生保護期）を運用しています。地上遊歩道の更なる利用の安定化や質の高い自然体験を提供するため、開園～7月をヒグマ活動期、8月～閉園を植生保護期とすることを検討しています。

### ○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

平成30年も引き続き8月1日～25日の25日間でマイカー規制を実施しました。なお、混雑緩和自体を目的としたものから、利用者へのサービス向上と周囲の自然環境保全の効果も持つ「前向きな」交通規制への移行を検討する必要性が指摘されており、他のWGとの協働や連携を検討しています。

### ○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会として、知床海鳥WEEKや自然センターでの企画展等の各種イベントや海鳥のモニタリングを実施予定です。知床ウトロ海のハンドブックの売上収入については、海鳥及びその生息環境の保全活動と普及啓発活動のバランスを取って投資することを、WGから実施主体に提案したいと考えています。

## 3 主な検討事項や今後の予定

- ・適正利用・エコツアーリズム検討会議を2回開催予定です（第1回：平成30年9月27日、第2回：平成31年2月予定）。
- ・長期モニタリング及び既存ルールの見直しを進めるため、検討会議とは別に適正利用・エコツアーリズムWGを開催します。平成30年度は検討会議に合わせて2回開催予定です。
- ・既存ルールの見直しを含めた議論・検討を推進するため、知床国立公園利用のあり方懇談会を平成29年度及び平成30年度に実施し、知床半島の利用に関する地元意見をまとめる予定です。平成30年度は全3回の実施を予定しています。
- ・地域外の資源利用者とのコミュニケーションをとるため、地域外の観光専門家の参加が平成29年度の第1回の検討会議で合意されました。平成30年度から北海道運輸局がWG及び検討会議に参加しています。
- ・平成30年度の第1回検討会議でヒグマによる人身事故の防止に向けた緊急対策が必要とされ、早急に議論の場を設定することとなりました。